

国営越後丘陵公園「えちごスノーワールド」について ～雪資源を活かした公園利用～

甕澤拓海*1

1. はじめに

国営越後丘陵公園（以下、「当公園」という。）は、北陸地方の広域レクリエーション需要に対応するため、全国で13番目の直轄公園事業であり（図1）、本州日本海側唯一の国営公園として、新潟県長岡市において「天に学び、地に遊び、人と集う、越の里」のテーマのもと平成元年度より事業を進めている。



図1 全国の国営公園

当公園は、関越自動車道長岡IC及び、長岡南越路スマートICから至近の距離に位置する丘陵地帯（全体面積約400ha、標高80～260m）で良好な交通条件にある。また、北陸自動車道大積PAのスマートIC及びSICから当公園までの連絡道路も事業化されており、アクセスは更に向上することとなる（図2）。

恵まれた自然条件を活用し、雪国文化や風土を活かしつつ、来園者が四季を通じて広々とした園内で遊び、色とりどりの花を楽しみ、里山の自然や暮らしを体験できるとともに、誰もが安全・快適に利用できるよう、園内の各施設はユニバーサルデザインを基本として整備を進めている。

また、管理運営にあたっては、園内の豊かな自然環境や地域の観光資源を活かし、地域のボランティア等との連携のもと、里山の自然環境とのふれあいの機会の提供や、イベントの充実、効率的な管理運営等を進めている（図3）。

当公園の管理運営は民間委託により行っている。年間を通じて開催される大型イベントは、「チューリップまつり」「香りのばらまつり（春・秋）」「あじさいまつり」「オータムフェスティバル」「えちごスノーワールド」



図2 位置図

「早春フラワーフェスティバル」などである。本稿では、冬の公園利用について、地域と連携した様々な取り組みを実践している「えちごスノーワールド」を中心に報告する。



図3 全体構成図

*1 国土交通省 北陸地方整備局 国営越後丘陵公園事務所 工務課

2. これまでの整備概要

2.1 供用の経緯

当公園は、昭和62年度に長岡市川西地域西部の丘陵地を国営公園候補として決定し、平成元年度より事業に着手した。平成3年度より「健康ゾーン」の工事に着手し、平成10年7月30日に一部（29ha）を開園した。その後整備を進め、平成15年度には健康ゾーン（120ha）が概成した（写真1）。「里山フィールドミュージアム」（以下、「里山FM」という。）は、平成15年度より整備に着手し、令和3年4月までに217.3haを開園した（写真2）。



写真1 健康ゾーンの主な施設（ばら・遊具）



写真2 里山FMの主な施設（古民家・あそびの里）

2.2 入園者数の推移

平成10年度の開園以来入園者数は、増加傾向で推移していたが、平成27年度の年間55万人をピークに、減少傾向にある。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休園等の影響を大きく受けた（図4）。

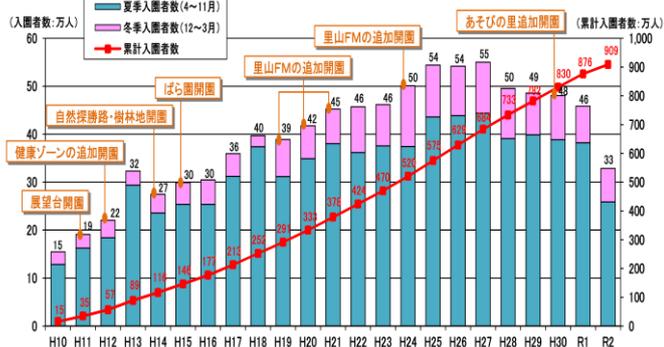


図4 入園者数の推移

3. 冬季の利活用

3.1 えちごスノーワールドの意義

スノーリゾート新潟への貢献も目指して、手軽に雪遊びを満喫できる公園として、「えちごスノーワールド」（冬季の愛称）の魅力を国内外に発信し、冬季利用の集客力を高めることにある。

3.2 開園形態

当公園は、積雪地域にあることから、夏季開園（グリーンシーズン）と冬季開園（ホワイトシーズン）に区分した運営を行っている。冬季開園は利用区域が限定されるため入園料・駐車料とも無料で開園している（表1）。

冬季閉鎖エリアは里山FM全域、健康ゾーンの一部（ばら園、遊具、越の池、他）などである。

表1 開園形態

開園形態	期間	開園時間	入園・駐車料金
夏季開園 (グリーンシーズン)	4・9・10月	9:30~17:00	有料
	5~8月	9:30~18:00	
	11月	9:30~16:30	
冬季開園 (ホワイトシーズン)	12~3月	9:30~16:30	無料

ただし、冬季は夏季に比べて集客が少ないため（図4）、冬ならではのイベント等を工夫して実施し、集客増を目指している。

3.3 冬季のイベント

(1) ウィンタースペシャルオープン（12月）

12月上旬からは、日中の公園利用の促進を屋内施設「花と緑の館」を中心にイルミネーション等を用いて装飾によりクリスマスムードを演出し、土日には「クリスマスマーケット」として、クリスマスの雑貨販売のほか、Xmasリースなどを作るワークショップも開催。12月24・25日のクリスマスに「ウィンタースペシャルオープン」と題して夜間開園を企画（写真3）。



写真3 ウィンタースペシャルオープン

(2) スカイランタンフェスティバル（12月）

光をともした風船を飛ばす「スカイランタンフェスティバル」をクリスマス関連イベントとして開催。火を使わない特殊なスカイランタンを使用することで、子供も一緒に楽しむことができる。また、ランタンに使用する和紙に手描きでオリジナルのデザインを施すことが可能。それぞれの「思い」や「願い」を込めたスカイランタンを作り、打ち上げられたランタンのオレンジ色の灯りで幻想的な雰囲気に包まれる（写真4）。



写真4 スカイランタンフェスティバル



写真5 ソリゲレンデ

(3) えちごスノーワールド (1月～2月)

銀世界の中で雪遊びやソリ、クロスカントリースキーなどが楽しめる「えちごスノーワールド」を開催。

「北陸地方最大級」の長さを誇る150mのソリ専用ゲレンデや緩やかな斜面を活かした初級のスキーゲレンデ、雪遊び広場など、手軽に雪遊びを楽しむことができる。

また、令和2年度よりスノーレーサーなどの持ち込みが可能な「アクティブゲレンデ」を新設した(図5)。

各種スノー用品の貸し出しも行っており、手ぶらで雪遊びを満喫できる。平日は地元の保育園・小学校のレクリエーション、土日はファミリー層に利用されている(写真6)。



写真6 雪に親しむソリ授業



図5 ゲレンデコース図

土・日曜・祝日には、無料のソリ用ロープリフトを運行するほか、スノーシューコースやクロスカントリースキーコースなど大人から子供まで楽しめるウィンターアクティビティを充実させ、冬期の健康増進の場を提供している(写真5)。

そのほか、エア遊具や木製遊具、ボルダリングなどを備える屋内遊具施設「KIDSステーション」では、天気が悪い日でも子供たちが安心して遊ぶことができる(写真7)。



写真7 KIDSステーション

(4) 雪上を走るトレイルランニング大会 (2月)

雪の里山を駆け抜ける「スノートレイルランナーズカップ」を開催。プロトレイルランナーが大会をプロデュ

ースし、4 kmコースは3歳から気軽に参加できる敷居の低いレースイベントである。また、令和2年度からは高低差約60mのフォーリーの丘を駆け上がる「バーティカル種目」を新設した(写真8)。



写真8 スノートレイルランナーズカップ

4. 冬季の地域連携イベント

(1)長岡花火ウインターファンタジー(12月)

平成29年度から新しい取り組みとして、長岡花火を実施。令和3年度で5回目の開催となる「長岡花火ウインターファンタジー」は、地域ブランドの代表格である「長岡花火」と、当公園のイルミネーション空間がコラボする地域連携イベントとして発展してきた。コロナ禍の影響で「長岡まつり大花火大会」が2年連続で中止となる中、令和2年度も感染症対策をしながら、入場制限の上で1日限定で開催。令和3年度は、Withコロナ時代に向けたイベント運営のあり方を探るため、3日間(12月11・18・19日)の分散開催とし、長岡花火ブランドと当公園の魅力を発信、地域活性化にも貢献している(写真9)。



写真9 長岡花火ウインターファンタジー

(2)ペンギンふれあい体験(2月)

雪の積もった広場をペンギンたちが散歩する「ペンギンふれあい体験」を開催。地元長岡市の寺泊水族博物館と連携し、相乗効果で両施設の冬期間の利用促進を図っている(写真10)。



写真10 マゼランペンギン

(3)えちご雪割草街道(3~4月)

新潟県の草花(H20.3.1指定)である雪割草の観賞地「当公園」「雪国植物園」「大崎雪割草の里」「妙法寺」の4カ所を結ぶルートに「えちご雪割草街道」と名付け、3~4月の花の見頃には周辺地域と連携したイベントを開催(写真11)。



写真11 えちご雪割草街道

5. 今後の課題

公園の通年利用を目指し、冬季は「えちごスノーワールド」としてゲレンデ利用を展開しているが、近年は少雪傾向で十分な積雪量を確保出来ずにゲレンデ開放が難しいのが現状である。今後、積雪量に左右されない魅力づくりと発信に着目し、以下の利用促進に取り組む必要がある。

- ①KIDSステーション(屋内遊具施設)の更なる利用促進
- ②屋内花修景の充実(アイスチューリップ、アザレア他)
- ③KIDSステーション厨房施設の活用(飲食販売)

6. まとめ

当公園のこれまでの冬期間の取り組みは、新たな魅力の向上につながっている。コロナ禍においても様々な工夫を行いながら集客に努めてきたが、イベントの人数制限などの影響により集客力アップにつながっていないのが現状である。今後、Withコロナとして、安心して公園を利用して頂けるようなイベントの開催方法(分散開催)等の取り組みを行うことは、広域レクリエーションを担う国営公園の責務としても重要である。

来園された皆様、安全・安心してご利用いただけるよう、引き続き更なる努力をしてみたい。